

みちづくりの指針（2025年の将来像）

活かす ～みちを活かし暮らしを豊かにする～



つなぐ

～地域をつなぎ経済を支える～

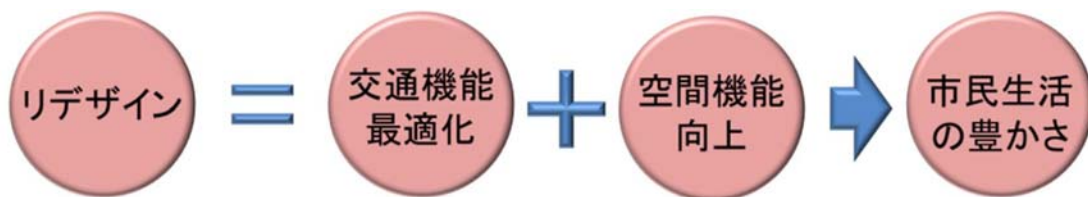


守る

～災害に備える・環境に配慮する～



「道路のリデザイン」とは



道路のリデザインの考え方



道路空間の再配分のイメージ図

道路空間の活用について 道路のリデザインの事例（1）

<明石町筋>



- ・歩行者空間の拡大（3m → 3～6m）

道路空間の活用について 道路のリデザインの事例（2）

<葺合南54号線>



- ・歩行者空間の拡大（4m→7～10m）
- ・憩い空間の創出

<三宮中央通り>



- ・ 停車帯を活用したパークレットの設置

<北野（山本通り）>



- ・ 電線共同溝の整備による歩道の無電柱化
- ・ 沿道景観に配慮された付属物の整備

<フラワーロード>



- ・ 夜間景観を形成する「光のミュージアム」

<鳴尾御影線>



- ・ 自転車レーンの設置による歩行者との分離

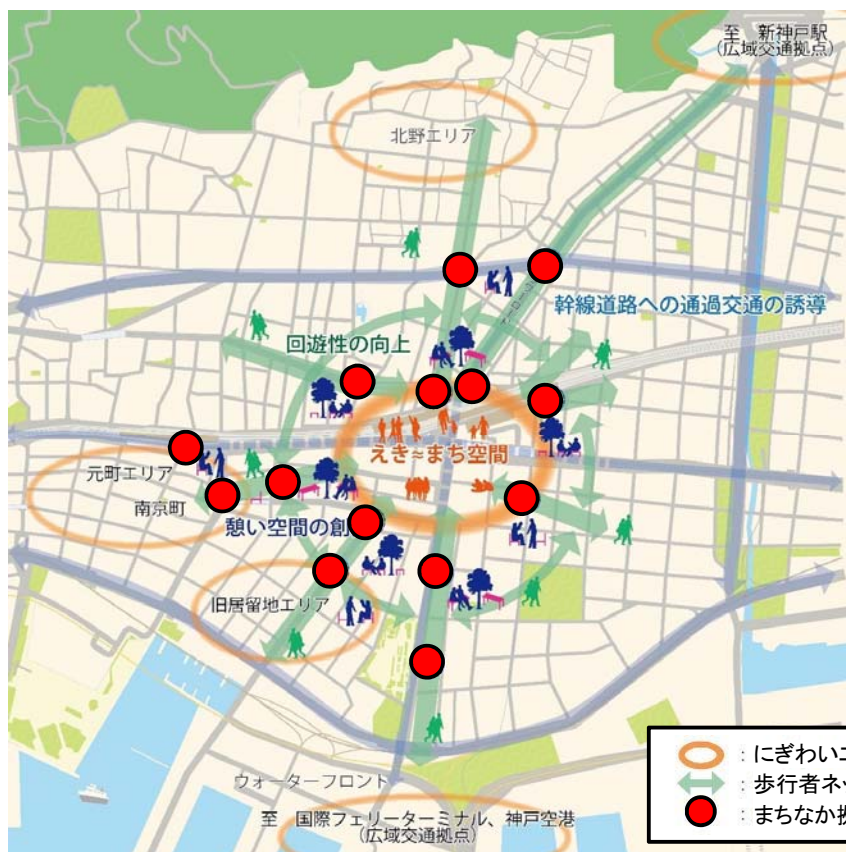
都心三宮のまちづくりの5つの方針として、

- ①歩くことが楽しく巡りたくなるまちへ
- ②誰にでもわかりやすい交通結節点へ
- ③いつ来てもときめく出会いと発見を
- ④人を惹きつけ心に残るまちへ
- ⑤地域がまちを成長させる

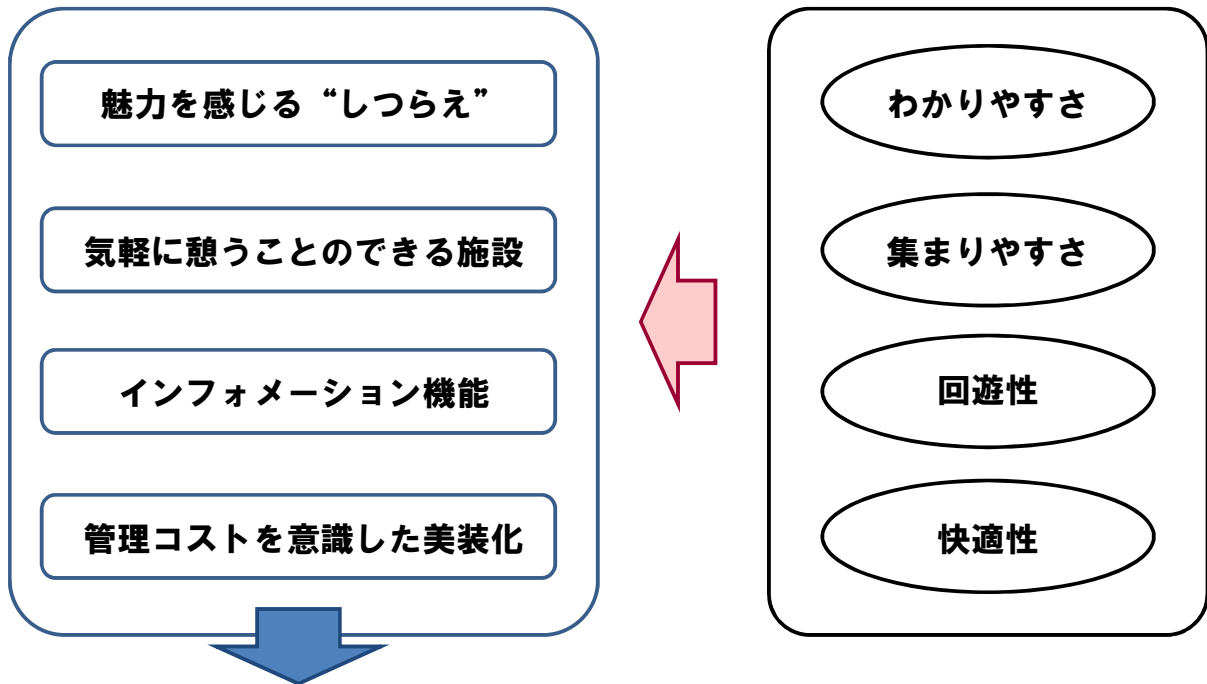
を掲げ、都心の再整備を図っていきます。

空間機能を充実させるための新たな取り組み（まちなか拠点）

概念図



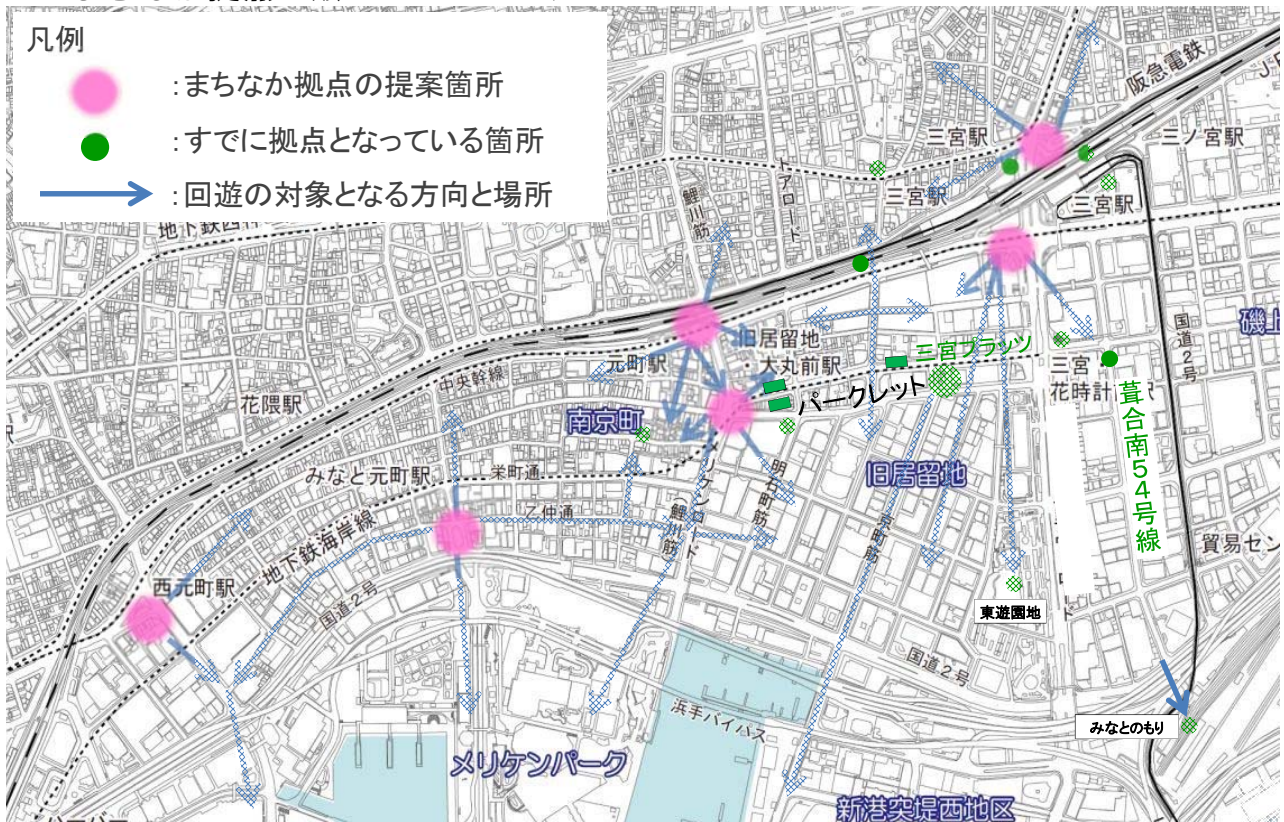
空間機能を充実させるための新たな取り組み（まちなか拠点）



地域と連携した管理体制の構築なども検討

空間機能を充実させるための新たな取り組み（まちなか拠点）

<まちなか拠点と賑わいのイメージ>



都心の道路における憩いや賑わい創出の新たな取組みとして、停車帯の一部及び歩道上に「KOBEパークレット」を設置する社会実験を行っています。

- ・社会実験期間 : 平成28年10月13日（木）～平成29年3月まで
- ・対象路線 : 三宮中央通り

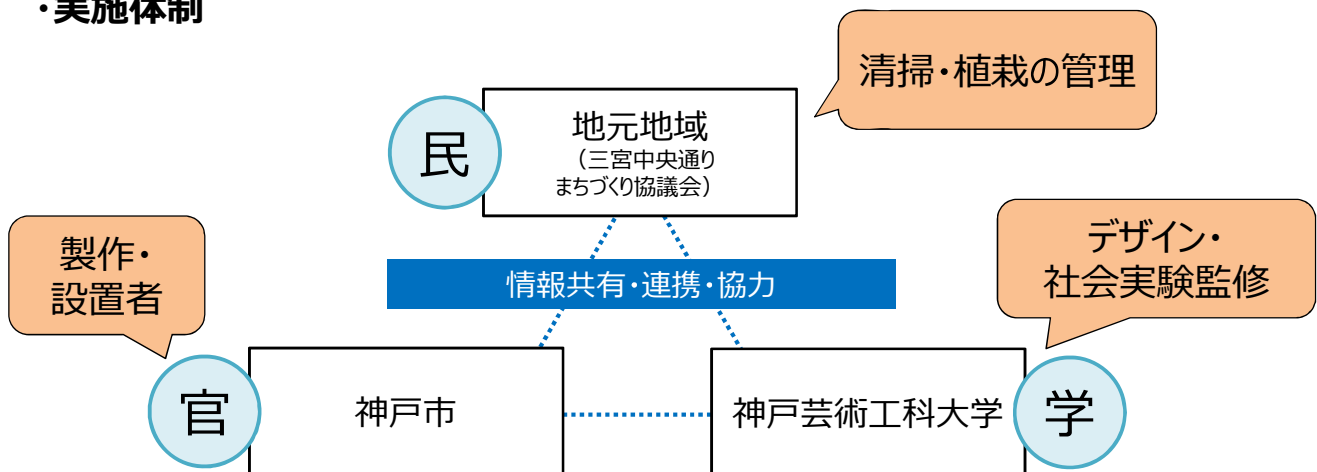
三宮中央通り

⇒三宮駅と元町駅を東西につなぎ、まちの回遊性を高める歩行者ネットワークを担っている。

⇒地域の商店街で構成される「三宮中央通りまちづくり協議会」により、オープンカフェの継続的な運営を行うなど、街の活性化に力をいれている。



・実施体制



《連携により期待される主な効果》

- 効果的な役割分担
- 公共空間としての機能向上（来訪者の満足度向上～都市魅力の創造）
- 民主導のまちづくりによるにぎわい・交流の場を創出（新たなビジネスチャンスの創出）

位置図



・3タイプのKOBEパークレット

タイプ	Aタイプ ～長時間滞在型～	Bタイプ ～中時間滞在型～	Cタイプ ～短時間滞在型～
概要	<ul style="list-style-type: none"> ●グループでの利用を想定したタイプ ●ローテーブルとそれを囲うベンチで1つの空間を創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ●少人数や主に子ども連れ等の買い物客の利用を想定したタイプ ●対面式のベンチと人工芝によるミニ・プレイグラウンドを配したものを。 	<ul style="list-style-type: none"> ●主にオフィスワーカー等の個人利用者を想定したタイプ ●カウンターテーブルとスツール（単独型）を配したものを。

現在(全体図)



現在(音楽イベント時)



地下公共空間を活用

将来(イメージ)



・人々が憩いにぎわう
魅力的な空間の創出

①居心地の良い滞留空間とは？

例) KOBEパークレットでは、塀の高さが一つの課題である。

- ・高くする利点・利用者にとって囲まれる安心感。特別な空間にいる快適性。など
- ・低くする利点・対面からも沿道が見やすい。街並みに対し存在感を与えない。など

(議論の視点)

人にとって居心地の良い公共空間を創るためには？ (プレイスメイキング)
道路の空間機能として求められるものは？

②都心において、まちなか拠点はどのような場所に展開していくべきか？

(議論の視点)

都心の回遊性を高める路線の位置づけの考え方は？

③まちなか拠点を活用した取組みについて

例) 道路空間におけるイベント利用 (地域や民間とはどう連携するか？)

(議論の視点)

市民や沿道地域の人が道路に愛着を持ってもらうためには？